

寒い日が続きますが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。

経済統計の話ですが、2024 年について、ケベック州の輸出相手国として、金額ベースで、日本は第 3 位となりました。第 5 位であった 2023 年に比べ 14.6%の伸びとなりました。総領事館として、日本企業支援を含む日本と管轄州の経済関係深化に引き続き努めて参ります。

●1 月 28 日、ケベックシティーにて、ルゴー・ケベック州首相による、総領事団を対象とした恒例の新年会が開かれました。昨年同様、ケベック州の多くの要人の方々が出席され、私も再会を喜んだり、日本との関係について意見を交わすことができました。今回は首相、国際関係省、議会議長などに加えて、近く、在京ケベック州事務所に所長として赴任される予定のマリオ・ジラルド氏（前ケベック港湾公社総裁）ともお会いすることができ、同氏の赴任を前に色々と意見交換をすることができました。毎年本件を開催してくださるケベック州国際関係省の方々に感謝します。



●1 月 29 日、上記出張の機会を利用して、マルシャン・ケベック市長と面会しました。邦人保護について改めてお願いすると共に、日本文化、日・ケベック市関係の発展に関して有意義な意見交換を行いました。わざわざ日本茶でおもてなし下さったマルシャン市長の温かい歓迎に感謝申し上げます。



© Ville de Québec



© Ville de Québec

●1月31日、当館は国際交流基金とともに、ケベック・日本友好協会のご協力の下、ケベック市においてカナダ巡回日本映画祭を開催しました。日本文化・国費留学生制度・JETプログラム等についてのプレゼンテーションに続き、日本映画を2本上映し、約75名に参加いただきました。ご協力いただいたケベック・日本友好協会の皆様にお礼申し上げます。

●2月2日、昨年に引き続き、モンリオール市立植物園日本庭園内日本館での裏千家淡交会モンリオール協会の初釜行事に参加させていただきました。同会の日本やケベックのメンバーの方々による心のこもった、かつ、素晴らしいチームワークでのデモンストレーションが行われました。茶道を習いに来る生徒数は増加傾向にあるとのことでした。日本文化の重要な一側面をカナダの方々に紹介・普及するため日々努力をされている同会の方々に心より敬意を表します。



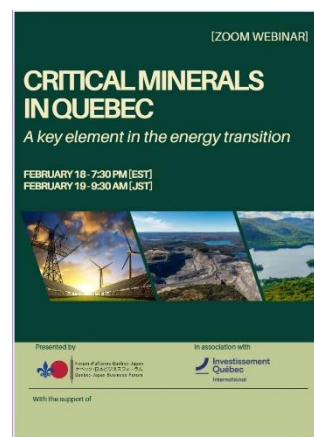
●同日、高久首席領事が、ケベックシティで開催されたケベック・日本友好協会の新年会に参加しました。地元の方60名以上が参加し、茶道や書道のパフォーマンス、節分の豆まきなど、大人から子供まで楽しみながら日本文化を体験する機会となりました。会にはケベック州国際関係省日本・韓国・オセアニア課 David Rangdrol 課長も出席されました。同市住民の方々に、日本文化に触れる貴重な機会を提供されている同会の方々に心より敬意を表します。



●2月7日、モントリオール日本商工会との新年賀詞交換会を行わせていただきました。今回は、上記ジラル在京ケベック州事務所の新所長と Rangdro1 課長にも出席いただき、商工会のメンバーである日本企業の方々と交流する機会となりました。ジラル新所長の東京でのご活躍をお祈りします。



●2月18日、ケベック・ジャパン・ビジネス・フォーラム（QJBF）主催で、日本にいる企業等に向けて、オンラインで、ケベック州の鉱物資源に関するウェビナーが開催されました。80名近くの参加による盛況で、ケベック州自然資源・森林省のドゥレ氏より、ケベック州での鉱物資源に関する非常に詳しい説明がなされました。ご存じの通り、カナダは連邦制で鉱物資源開発は基本的に州の権限ですので、その意味で、所管する自然資源省から話が直接聞ける貴重な機会となりました。本件ウェビナーが、今後の日本とケベックの経済関係の強化につながることを祈ります。



●2月19日—20日、ケベック大学のアジア・インド太平洋研究センター（CERIUM）主催で、インド太平洋をテーマとした第二回のシンポジウムが開催されました。地政学的状況を踏まえた新たな外交政策の方向性、経済安全保障とグローバルなバリュー・チェーン、新たな課題といった幅広いテーマで約30名の研究者の方々によるパネルディスカッションや発表が行われました。日本からも、柳田健介国際問題研究所研究員と Jeffrey Ordaniel 東京国際大学専任講師に参加いただきました。ケベック州は2021年に「インド太平洋戦略」を発表しているところ、冒頭挨拶された Bernard Denault ケベック州国際関係省インド太平洋担当総局長によれば、本講座は、ラバル大学の同様の講座と並んで、同政策のフォローアップの一環として支援しているとのことでした。私の冒頭挨拶では、このようにアジア・インド太平洋に研究者の関心が高まっていることは大変喜ばしいこととしたうえで、日本の「自由で開かれたインド太平洋」、経済安全保障、グローバル・サウス等について、日本の基本的考えを紹介しました。本件シンポジウムを開催された CERIUM に感謝します。



●2月20日、当館は、元国費留学生、JETプログラム元参加者、カケハシプログラム参加者等による交流会を開催しました。日本に関係のある方々による親交・交流を深めてもらう大変良い機会となりました。引き続き日本関連分野での皆さんのご活躍を期待します。



●2月26日、モントリオール市長による、当地総領事団を対象とした恒例のレセプションが行われました。同市は広島市と姉妹都市関係にあるところ、プラント市長やムサウ＝ムエレ市議会議長等と今後の同市と日本の友好関係について触れました。



*上記の他にも、日本やカナダの様々な方や団体の関係者と意見交換などを行うことができ、大変有意義な1か月でした。

*本メッセージは仏・英語にても、メルマガ読者に配信しています。